

事務事業評価シート 令和 1 年度事後評価・決算

令和 3 年 2 月 22 日時点

事務事業名		コード	33500	消防団施設強化事業		予算科目	会計	款	項	目	事業種別	☒ 主な事業
施策体系	基本施策	30	消防力の強化		根拠法令	消防組織法、消防団を中核とした地域防災力の充実強化に関する法律ほか	一般	9	1	2		☒ 国土強靱化地域計画
	施策の展開	59	非常備(消防団)消防体制の充実		戦略事業	261	消防団用通信網・災害用器材の整備					☐ 新市建設計画
	施策の展開				戦略事業							☐ 定住自立圏構想
												☐ 主要事業

(1) 事務事業の概要

① 事務事業の期間		② 事務事業の内容 ※何をどのようにする事務事業なのか、市民が理解できるよう記述する、行政用語は使わない	
☒ 単年度繰返 ☐ 平成 年度～ ☒ 開始年度不詳 ☐ 期間限定複数年度 平成 年度～ 令和 年度まで		火災、風水害及び地震等による災害時に、消防団員が災害活動に安全に従事する為、基準に基づき必要な装備品を整備する。 団員 活動服一式、保安帽、耐切創製手袋は整備済、随時更新していく。 防塵マスク、防塵メガネ、救助用安全靴は今後検討し整備していく。 各部 防火衣一式(各部5セット整備済)、救命胴衣(各部5着整備済)、車載用デジタル無線機等(整備済)、投光器、発電機(共に各部1台整備済)、チェーンソー(各部1台整備済)、随時更新また維持管理していく。	
③ 事務事業開始の経緯・事務事業の現状		④ 事務事業に関する課題・環境の変化	⑤ 事務事業に対する住民からの意見等
合併前から各市町で整備していた。 合併前の各市町で整備内容がバラバラであったが、合併後整備内容の統一を図るよう整備を進めてきた。		平成25年2月に消防団の充実強化に関する法律が新たに制定され、消防団の装備の基準が改正された。	国は消防団の装備の強化を図るため、交付税を上げた。 旭市消防委員会において、団員の安全確保のため消防団の装備を計画的に進める必要がある、との方針が出された。

(2) コスト・特定財源の状況

① 事業費の詳細(1年度の決算)		単位:千円
1.需用費	13,089	活動服、長靴、消防ホース
2.備品購入費		
② 特定財源の内訳(1年度の決算)		単位:千円
1.国庫支出金		
2.都道府県支出金	2,080	消防防災施設強化事業補助金
3.地方債		
4.その他		

事業費	費目内訳	単位	28年度(決算)	29年度(決算)	30年度(決算)	1年度(決算)	2年度(予算)
事業費	1. 需用費	千円	3,419	2,378	2,859	13,089	2,918
	2. 備品購入費	千円	1,337				
		千円					
		千円					
		千円					
財源	事業費計 (A)	千円	4,756	2,378	2,859	13,089	2,918
	1. 国庫支出金	千円					
	2. 都道府県支出金	千円	883	395	476	2,080	485
	3. 地方債	千円					
	4. その他	千円					
	5. 一般財源	千円	3,873	1,983	2,383	11,009	2,433

前年度増減理由	全消防団員へ新基準活動服を購入したため増額となった。
---------	----------------------------

従事職員数	常時 1 人	最大 2 人 × 40 日 = 延べ 80 人
-------	--------	-------------------------

(3) 事務事業の手段・目的と対応する指標

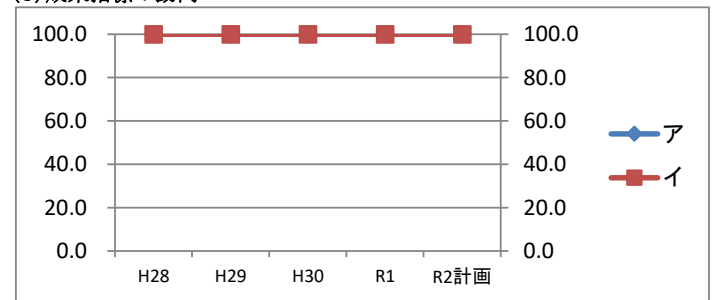
手段	① 主な活動	③ 活動指標名	単位	28年度(実績)	29年度(実績)	30年度(実績)	1年度(実績)	2年度(計画)
	1年度実績(1年度に行った主な活動)	車載用デジタル無線機整備台数	台	0	0	0	0	0
目的	新基準活動服を全団員へ配備	携帯用・基地局デジタル無線機整備台数	台	0	0	0	0	0
	消防ホース及び切創防止保護衣を各部へ配備	救命胴衣整備数	着	0	0	0	0	0
目的	② 対象・意図(対象がどのような状態になるのか)	④ 成果指標名	単位	28年度(実績)	29年度(実績)	30年度(実績)	1年度(実績)	2年度(計画)
	対象意図	デジタル無線設置率	%	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
目的	消防団	車載用51台、携帯用2台、基地局1台	%	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
	消防団伝達体制の確立	救命胴衣の充足率(各部5着)	%	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
目的	対象意図							
	消防団							
目的	水害救助活動時の安全確保							

(4) 事務事業優先度評価の結果

① 成果優先度評価結果		成果向上余地		
施策貢献度	大きい	かなりある	ある程度ある	ほとんどない
		②		
施策貢献度	普通			
施策貢献度	小さい			

② コスト削減優先度評価結果		コスト比率		
評価結果	①	下位 1/3	中位 1/3	上位 1/3
		(2)		
評価結果	②			
評価結果	③			
評価結果	④⑤			
評価結果	⑥			
評価結果	⑦⑧			
評価結果	⑨			

(5) 成果指標の動向



(6) 事務事業に関する評価

① 進捗状況	☒ 完了	☐ 順調	☒ 概ね順調	☐ 停滞	☐ 実施困難
【コメント】 (停滞・未実施・実施困難の場合、その理由)					
② 成果の状況	成果指標ア	成果指標イ	数値増＝成果向上	数値増＝成果向上	数値増＝成果向上
【コメント】 (低下の場合、その理由)	成果指標ア	成果指標イ	向上	向上	向上
③ 今年度取組事項 (2年度に取り組む主な事項について記載)	時期	内容	今後の方角性	現状維持	見直し
		各種訓練・災害時には新たに配備した新基準活動服で対応にあたり、棄損した長靴や消防ホースなどを適宜入替える。	令和2年度	拡大	廃止・休止
				縮小	その他()